

## 平成27年度豊かなむらづくり顕彰事業 実施概要

本顕彰事業は、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収めている団体等を表彰するとともに、その活動内容を広く紹介することにより、農業・農村の発展に寄与することを目的に、関係機関の御支援をいただきながら昭和56年より実施しており、本年度で34回目を迎えました。

これまで「むらづくり部門」で162団体、「農業生産部門」で82団体の合わせて244団体が、農山村における地域づくりの模範的な団体として受賞されています。

内 容	時 期
事業募集	平成27年8月19日（水）
予備審査会	平成27年10月29日（木）13：30～15：00 ところ：杉妻会館3階 百合B
現地調査	平成27年11月20日（金）～12月2日（水） うち5日間
本審査会	平成28年1月22日（金）10：30～12：00 ところ：杉妻会館2階 けやき
表彰式	平成28年3月24日（木）14：00～15：10 ところ：杉妻会館4階 牡丹

## 平成27年度豊かなむらづくり顕彰事業 審査講評

本年度は3市1町1村から「むらづくり部門」に2団体、「農業生産部門」に3団体の合わせて5団体の御推薦をいただきました。

本年度の推薦団体は、「集落全戸参加型法人により集落の農業や伝統を守り、地域活性化を目指すむらづくり」、「棚田オーナー制度で都市交流を図りながら、地域住民の結束力を高めているむらづくり」、「稲WCS導入により新たな営農を構築し地域活性化を実現」、「地域を未来へ引き継ぐために日本一美味しい米づくりへ挑戦」「地域一丸となった品質改善で銘柄米の産地を確立」に向け、地域の特長を生かし、創意工夫を重ねながら、先進的、かつ、個性的なむらづくりや農業生産活動が実践されています。

本県農業を取り巻く状況は依然厳しい中、農山漁村に受け継がれた豊かな資源を活用して、地域の潜在的な活力を引き出し、地域の絆を推進力として大きな成果を挙げているその姿は、本県農業・農村の再生に大きな弾みとなるものであります。

審査会では、これらの推薦団体は今後も一層の発展が期待され、他地域の模範となるものと高く評価できることから、平成27年度豊かなむらづくり顕彰事業の優秀団体として5団体を決定いたしました。

なお、白河市の「農事組合法人入方ファーム」は、「自分たちの集落を守っていく活動」を実践するために、集落全戸参加型法人を設立し、農業機械・施設の共同利用などによるコストの低減や、カラフルミニトマトなど新たな地域特産物生産にも取り組むとともに、生活環境面では自治体と連携し、地域の災害防止、伝統行事の継承の役割を担うなど魅力あるむらづくりに大きく貢献しており、今後もさらなる発展が期待されていることから、平成28年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に本県代表として推薦することといたしました。

各受賞団体の皆様には、今後とも豊かで活力あふれるそれぞれの地域を次世代に繋げていくためにも、積極的にむらづくり活動に取り組み、本県農業と農村の振興に一層御貢献いただきますよう期待いたします。

(審査長 福島県農林水産部長 小野和彦)

## 平成27年度豊かなむらづくり顕彰事業 受賞団体の概要

### 【 むらづくり部門 】

#### ◆農事組合法人入方ファーム（白河市）

キャッチフレーズ：「自分たちの集落は、自分たちで守っていこう！！」



勢揃いした組合員の皆さん

～しずかに まじめに こつこつと～」

白河市の入方地区では、「自分たちの集落を守っていく活動」を実践するため、昭和56年に組織した「入方機械利用組合」など地域の3つの組織を中心に、平成24年に「農事組合法人入方ファーム」を設立しました。この設立により、農業機械と農地の集団的利用が進み、コストの低減が図られ、経営の安定化や生産者の意欲向上が図られています。平成26年からは水稻育苗後のハウスを利用し、カラフルミニトマトを栽培するなど施設の有効活用に挑戦しています。

また、平成26年の豪雪、27年の台風の際は自治会と連携し、地域の災害防止に貢献、さらに、地域の伝統行事である「どうらんぶち」や「数珠くり」、「大早苗振り」などの実施に重要な役割を担うなど、地域農業の活性化や魅力あるむらづくりの中心的な存在として、今後もさらなる発展が期待されています。

#### ◆久保田グリーンツーリズム推進協議会（柳津町）

キャッチフレーズ：「久保田観音たっしや村 棚田オーナー制度によるむらづくり」



稲刈後の棚田オーナーと  
久保田グリーンツーリズム推進協議会  
の皆さん

久保田グリーンツーリズム推進協議会は、平成20年に柳津町久保田地区に設立され、「体験型グリーンツーリズム」や県内初の「棚田オーナー制度」、また、古くから継承している「三十三観音祭」などの取組をとおして、耕作放棄地の再生や地域景観の美化活動につなげています。

特に、棚田オーナー制度は、都市住民との交流をとおして地域活性化に大きく寄与しており、平成26年度は延べ232名のオーナーを受け入れております。また、オーナーには「たっしやむらだより」や地場野菜等を郵送するなど、今では親戚のような関係となり、9割がリピーターとなっています。

これらの活動により、地域住民の結束力が高まり、住民全体で地区内の環境整備に取り組む相互扶助活動が活発化するなど地域活性化に大きく貢献しており、近隣集落への波及効果も期待されています。

## 【 農業生産部門 】

### ◆松川町水原地区生産組合（福島市）

キャッチフレーズ：「稲 WCS 導入による耕畜連携の構築」



平成26年度総会の様子

水稲地帯の生産調整の取組を進めるため、平成13年に「松川町水原地区生産組合」を3名で設立しました。その後、平成20年からは地域水田農業活性化緊急対策を契機として、本格的にWCS栽培に取り組んでいます。

当組合ではWCSの低コスト化への取組として水稲の直播栽培を導入する他、適期収穫ができるように、「チヨニシキ」、「あきたこまち」を導入して、その栽培暦を作成・配付し、高品質・平準化を図っています。また、平成26年からは、近隣の畜産農家と耕畜連携の契約を結び、水田の地力向上に努めています。

さらには水原地区農業の維持・継続のため、平成24年に担い手となる「農事組合法人福島未来農業生産組合」の設立を支援し、WCSの収穫や直播・除草の受託など高齢農家も取り組める体制を構築し、米価が低迷する中で、組合員の所得向上に寄与するなど地域の模範的活動となっています。

### ◆天栄米栽培研究会（天栄村）

キャッチフレーズ：「日本一美味しい米作り、この土地を未来に引き継ぐために」



稲刈り取材を受ける  
天栄米栽培研究会の会員

天栄村の田園風景やゆったりした生活空間を次代に引き継ぐため、天栄村で実施した「第1回天栄米食味コンクール」をきっかけに、平成20年に「日本一美味しい米作り」のための情報交換と共有の場として、天栄米栽培研究会が設立されました。その後7年間、月1回の定例会を欠かさず行い、漢方環境農法天栄米や、JAS有機栽培米の生産のため、肥料の統一、紙マルチによる栽培等を実施し、食味と品質の向上を図ってきました。

平成23年の原発事故直後は、意欲的に放射性物質吸収抑制対策に取り組むとともに、ドキュメンタリー映画「天に栄える村」の製作に全面的に協力し、全国で100日を超える上映会の実施を通じて知り合った県内外の学生の課外学習の受入も行っています。

また、米・食味分析鑑定コンクール国際大会では、8年連続金賞受賞併せてゴールドプレミアムライスAAA(トリプルA)を受賞し、今では県内の米農家の模範となっています。



## ◆JA あいづ北会津銘柄米生産部会（会津若松市）

キャッチフレーズ：「地域一丸となって米の品質改善に取り組み、銘柄米産地を確立」



稲の生育について部会員で検討している様子

昭和62年、北会津の130戸の農家で「JAあいづ北会津銘柄米生産部会」を設立し、これまで地域一丸となって米の品質改善と銘柄米産地の確立に取り組んできました。部会が主体となって設置した実証展示圃は、部会員以外の農家も見られるようにするなど、地区全体の稲作技術の改善による銘柄米の産地化に向けた懸命な活動を行った結果、北会津地区はコシヒカリを主とした銘柄米産地となりました。

現在、「安心・安全で自然にやさしい米づくり、おいしさの追求極上米会津コシヒカリ」をコンセプトに、特別栽培米「ホテルの舞う里」をブランドとして差別化し、関西や九州で販売活動を行うなど、その取組は、他の模範となっています。